

# 備品管理を効率よく行うための個体識別技術

企業における備品や什器の管理を効率よく行うことのできる個体識別技術(QRコード®リーダと組込み系ユーザインタフェースSW)を紹介します。

## 備品管理の現状

企業において備品や什器の管理、特に現物確認による棚卸し作業は税務上の資産管理の面から必須事項となっています。また利用の立場にたっても「どこになにがあるか」を把握しておくことは重要です。

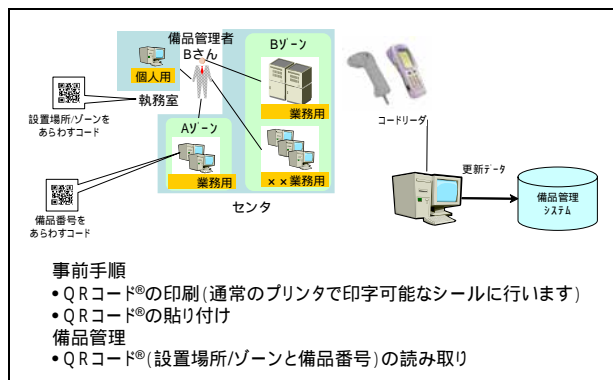
しかしながら、備品管理を行うことは楽ではありません。帳票やその管理はある程度システム化されておりますが(紙だけの企業も少なからず存在します)

- ・ データ入力作業負荷が大きい
  - ・ 見間違いによるデータ投入ミスから再検査が必要になる。
  - ・ ハンドキャリアなどの移動とデータ入力連動の不徹底
- 等が発生し、備品のタイムリーな情報登録/更新/照会ができないことが多数見受けられます。

## 効率の良い備品管理

ではこれらの問題点を解決し、効率よく備品管理を行うにはどのようにしたらよいでしょうか。その解決方法のひとつが、固体識別技術としてQRコード®を用いた備品管理です。

仕組み自体は非常に簡単です。



このように簡単な仕組みながらも効果は絶大で、実証実験では60%もの効率改善結果(執務フロアにおけるHW棚卸しの作業工数比較)が得られています。

仕組みが簡単なゆえに低コスト、維持もむずかしくなく、利用にあたっては複雑な手間はありません。備品や什器の管理にお嘆きの管理者の皆様、ぜひお試しになられてはいかがでしょうか。

## リファレンス実装

備品管理技術のリファレンス実装として、次のシステムが用意されています。

- シンボルテクノロジー製 QRコード®リーダ
- QRコード®読み取りライブラリ
- QRコード®印刷ライブラリ

また、サンプルとして動作するアプリケーションとサーバシステムがあり、日本ユニシス株式会社の備品棚卸し負荷削減の実証実験にも使われています。

なお、備品データを蓄積するにあたり、JDBCインタフェースとRinza™インタフェースのリファレンス実装を用意しています。JDBCインタフェースを用いればJDBC対応のDBを簡単に用いることができます。Rinza™インタフェースを用いる場合は、Rinza™サーバが備品の位置+時間の組み合わせを自動的に記録し、その情報により検索や履歴管理が行える4D処理が行えるようになります。

## QRコード®

QRコード®とは、デンソーウェーブが開発した2次元コードの一種です。従来のバーコードより、より小さなスペースで、より多くの情報を持たせ、かつリーダに読み取りやすくすることに主眼を置いて開発されました。

2次元コードにはQRコード®以外にもいくつか

---

の種類があり、それぞれに特徴を持っていますが、QRコード®は最大で英数字 4,296 文字(漢字 1,817 文字)と他のコードに比べ倍近い情報量をもち、かつ小さく(1次元バーコードに比べ 10 分の 1 程度)高速に読み込め、高いエラー訂正機能(約 30%の訂正率)も併せ持つ高機能なものです。



「<http://www.unisys.co.jp>」  
という情報を持たせたコード

## 参考文献・参考 URL

- ・ QR コードドットコム  
<http://www.qrcode.com/>
- ・ Symbol Technology  
<http://www.symbol.co.jp/>

## 連絡先

<http://www.tyzoh.jp/> [adtech-box@unisys.co.jp](mailto:adtech-box@unisys.co.jp)  
日本ユニシス株式会社 先端技術企画部  
〒135-8560 東京都江東区豊洲 1-1-1  
TEL 03-5546-4111 FAX 03-5546-7819